

## 佐久市保健福祉審議会児童福祉部会 会議録

日時：平成 29 年 7 月 21 日（金）

時間：14：15～15：15

場所：佐久市役所 701 会議室

### 出席者

#### 児童福祉部会委員

池田 喜忠、小林 政徳、神津 五人、宮沢 秀一、佐藤 洋一、両澤 正子  
春日 利夫、松川 たか子、佐藤 一夫、藤巻 崇、外川 裕子

### 欠席者

荻原 さき子、武田 香、木内 光輝

### 事務局

工藤 亨良（福祉部長）、角谷 秀敏（子育て支援課長）、小根山 史（保育係長）、佐藤 大樹（保育係）

### 1 開会

・子育て支援課長よりあいさつ

### 2 委嘱書交付

・任期について平成 29 年 8 月 26 日までであることを説明

### 3 自己紹介

### 4 児童福祉部会の組織等について

・子育て支援課長より説明

### 5 部会長の選出

・佐藤 洋一委員を部会長に選出  
佐藤部会長あいさつ

### 6 部会長職務代理の指名

・佐藤部会長より神津委員を指名  
神津職務代理あいさつ

### 7 協議事項

(1) 「保育所のあり方について」

(事務局)

配布した資料の保育士の正規職員と臨時職員の人数、またそれに伴う増加人数の訂正をお願いしたい。

(事務局)

昨年、保育所のあり方について取りまとめていた。しかしながら、併せて総合計画も作成しており、その整合性をはかるため、部会を持ち越していた。本日は内容を説明させていただくとともに、皆様から忌憚のない意見を頂戴したい。

(事務局)

少子高齢化、市民ニーズに併せた保育に関する最適化推進方針を説明

質疑、意見、要望等

(委員)

保育士不足がさげばれている中で、保育士の給料が安いために求人の申込が少ないのではないかと。そのことについて市は対策をしているのか。また、公立、私立で給料の格差があるのではないかと。また私立の認可、指導といったこともしているのか。

(事務局)

まず、認可については県で行っている。市として指導はおこなっていない。ただ、今年度からキャリアアップ制度が始まっており、キャリアアップがあれば補助金を増額している。

(事務局)

保育士不足は現状を認識している。公立、私立共に保育士の確保が厳しい。加配保育士も含め1年中募集を行っているのが現状である。年度途中で入所の希望あっても受け入れられていない。

(委員)

障害加配保育士について伺いたい。特別な資格が必要なのか、もしくは研修を受ければよいのか。また、正規職員なのか、臨時職員なのか。

(事務局)

保育士資格に加え、年4回の臨床心理士による研修を行っている。また、公立保育園の障害加配保育士は全て臨時職員である。

(委員)

第三子の保育料無料化の範囲を伺いたい。それが原因で未満児の入所が増えているのではないかと。公立に入所が増え、幼稚園の入所に影響がでるのではないかと。資料

にある「子育ての主役は子ども」であるなら、未満児を園に預けない家庭に対して支援をした方がよいのでは。

(事務局)

第三子は公立、私立保育園及び幼稚園(上限はある¥)すべて無料です。したがって、幼稚園の入所に影響は出ないものと考えている。

(事務局)

昨年、保育園に預けた理由というアンケートを実施した。その理由の中に第三子無料だからという回答はほとんどみられなかった。なので、未満児入所の増加の理由にあたらぬ。また、家庭への補助については考えていないがご意見とさせて頂く。

(委員)

就園奨励費についてまだ認知度が低い。冊子を作るなどして制度をPRしてほしい。

(委員)

保育サービスの充実について特に障害児保育に関して、乳幼児から支援をする方針は良い。学校も含めて児童になるまでタテ軸で連携して支援を強化してほしい。

(事務局)

支援が必要な子ども達には、保健師、福祉、学校が関わってトータル的な療育支援をしていく。その関係者が集まり取組をはじめており、強化していく。

(委員)

現在、公立保育園では臨床心理士は何人いるか。その人数で不足はしていないか。人数を増やす予定はあるか。

(事務局)

現在一人で、事案が大変多い中ですべてをカバー出来ているとは言えない状況である。募集はしているが、厳しい状況である。しかしながら、療育支援には力を入れて対応していく。

(委員)

足りないという声が多いので対応をお願いしたい。

(事務局)

今後の予定は、パブリックコメントを来月まとめて8月下旬30日に部会を開きたいと考えている。

## 8 閉会